



きざき

<http://www.kisho.city-niigata.ed.jp/>



2019年度 第2号

不易と流行 ～運動会編～

校長 増井 一久

今年度の運動会開催日が近付いてきました。いよいよ今週末、5月25日（土）です。記念すべき令和時代最初の運動会前ですので、運動会の歴史を調べてみました。

1874年（明治7年）、当時、東京の築地にあった海軍兵学寮で行われたアスレチック大会が日本最初の運動会とされています。当時は、アスレチックを「競闘遊技」と日本語に訳したそうです。種目は、短距離走、中距離走、走り幅跳び、走り高跳び、三段跳びといった、いわゆる陸上競技的な種目も多くありましたが、二人三脚、背負い競争、水おけ競争など、今では興味走と言われる種目も行われました。特に当時の人々が爆笑の渦に巻き込まれた種目、それは「豚追い競争」でした。体に油を塗った子豚を捕まえる競技です。必死で逃げる子豚を追いかける姿、子豚をやっと捕まえても油でヌルヌル、スルッと逃げられてしまう。屈強な若者たちがヘトヘトになって子豚を追いかける姿に観衆は腹を抱えて笑い転げたという記録が残っていました。

「競闘遊技」の他にも、「力芸」や「体育会」という名称で運動会が行われました。現在一般的な「運動会」というのは、1883年（明治16年）、今の東京大学で「運動会」という名称が使われたことでその呼び方が全国に広まったようです。

必死に競技する選手、そして、その選手に声援を送る仲間や観衆、グラウンドに集った人々が一体となるこの様は、運動会の長い歴史ずっと変わりありません。

ところで、運動会は時代とともに（時代のニーズに応じて）変わってきたことがいくつもあります。戦争の時代は、名称や競技に軍事色が反映されました。名称は「体錬大会」や「錬成大会」となり、「敵前上陸」や「爆弾リレー」という競技が行われました。

近年、昭和から平成にかけても少しずつ運動会のかたちが変わっています。かつて行われた「入場行進」や「ラジオ体操」を行わない学校が増えました。その代わりに「全校ダンス」を行う学校は急激に増えています。また、「代表リレー」ではなく「全員リレー」を行う学校も多くなりました。徒競走、興味走、団体種目もかつては男女別で行っていましたが、今は男女混合が増えました。

平成のはじめ頃、教育界では「序列化ではなく個性尊重」の考えが広まりました。これを受けある学校では、スタートからゴール数メートル手前まで全力疾走をするが、全員が手をつないでゴールし着順判定をしない徒競走が行われ話題になったこともありました。

一つのことを長続き（持続可能と）するためには、「変えないこと」（不易）と「変えること」（流行）のどちらも重視し慎重に判断しなければなりません。

木崎小学校の運動会も時代のニーズに応え少しずつかたちを変えてきました。今年度のねらいは次の3点です。

- (1) 競技や演技などの運動の経験を通して運動することの楽しさや喜びを味わわせると共に、体力・気力の向上を図る。
- (2) 演技、応援などを通して規律、公正、協力、責任などの態度を身に付けさせる。
- (3) 学校教育について保護者に理解してもらうとともに、学校と地域の良好な関係を結ぶ機会とする。

令和時代幕開けの歴史に残る運動会。木崎小学校の広いグラウンドで、赤軍 VS 白軍の熱い戦いが繰り広げられます。グラウンドに集う皆さんにとって素晴らしい一日になることを願っています。多数の皆様のご来校をお待ちしております。

2019年度 木崎小学校の重点目標と取組

教育ビジョンを受け、学力の向上、豊かな心、健やかな体、特別支援教育について、特に重点を掛けて取り組む内容を紹介します。



①学力の向上

【現状と課題】

- ① 学習して分かったことや気付いたことを「振り返り」の場面で表現することができるようになってきました。今年度は、友達とかかわりながら論理的に考え、学びを深めることも目指します。
- ② 帰りの会の10分間を活用した「ステップアップタイム」を昨年度より全校で行っています。今年度も全校体制で行い、家庭学習習慣の定着を目指します。

【重点目標】

- ① 友達とのかかわりの中で論理的に考え、「振り返り」で学びの深まりを自覚する子ども
- ② 自分で計画を立て、主体的に家庭学習に取り組む子ども

【目標達成のための手立て】

- ①-1 友達とかかわり、考えを深めるための支援の仕方を工夫します。
- ①-2 論理的な考え方や表現ができるようになるための話し方・聞き方・書き方を学年の発達段階に応じて継続的に指導します。
- ②-1 学年の実態に合わせて「ステップアップカード」や「ステップアップノート」を活用し、帰りの会の10分間で家庭学習の計画を立てます。
- ②-2 家庭学習のヒントになるように、全児童に「ステップアップガイド」を配付します。ステップアップガイドを基に、必要に応じて担任が家庭学習について継続的にアドバイスします。

②豊かな心



【現状と課題】

- 自己評価で、「自分にはよいところがあると思いますか」という問いに、肯定的な評価をしている子どもが増えてきています。今年度は、さらに自分に自信をもち、友達にも思いやりの心で接することができる子どもを目指します。

【重点目標】

- ① 2か月継続する生活目標を達成するために、学級において自分たちで課題を見付け、目標や取組方を決め、その評価のための学級会活動を充実させます。
- ② 友達とのかかわり合いの中で、思いやりや自己肯定感、自己有用感を育てます。

【目標達成のための手立て】

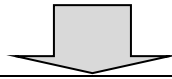
- 話し合い活動が充実するように、学年・学級の実態に応じた時間・形態で学級会を行います。「話し合う→実践する→振り返る→話し合う」というサイクルで、活動を継続していくようにします。
- 縦割り班清掃の反省会で、児童同士で互いに頑張っているところ、良かったところを発表し合います。また、学級での係活動、委員会活動や清掃、クラブ、縦割り活動等をやり切ることで、思いやりや自己肯定感・自己有用感をもたせます。さらに、全職員で児童の頑張っているところや良いところを褒め、認め、声掛けを繰り返すことで、子どもに自信と自己肯定感を育みます。

③ 健やかな体



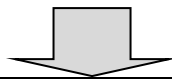
【現状と課題】

- 食への関心を高め、望ましい食習慣の形成を図るために、平成29年度から年間2回の全校弁当の日を実施しています。実施後のアンケートでは、90.8%が食に関する関心、理解が深まったと答えています。児童は、弁当作りに関わることで家族とのコミュニケーションを深め、自分の食事に関心を持つようになってきています。



【重点目標】

- ① 食に関する事項 食事に関心を持ち、望ましい食習慣を形成する。
- ② 体力に関する事項 自分の体力を知り、体力向上のために運動する。



【目標達成のための手立て】

【食に関する取組】

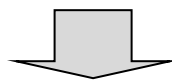
- ① 地域の産物や人材を生かした弁当の日の取組を通し、家庭と連携した食育の充実を図ります。
- ② めあてを意識することができるカードの使用などを奨励し、記録の蓄積を生かします。

④ 特別支援教育



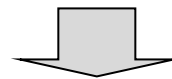
【現状と課題】

- 個々の児童の課題が多様化しています。多様な児童に対応するため、個別の指導計画や教育支援計画を作成し、それを活用していきます。
- 集団の中での子の変容が見られるよう、個別の指導計画をもとに個に応じた目標や手立てを考え、社会参加の力を育てていく必要があります。



【重点目標】

- 特別な支援を要する児童について、個別の教育支援計画等を活用しながら適切な支援を行い、自立と社会参加の力を育む。



【目標達成のための手立て】

- 自立を促す支援ができるようにするために、個別の教育支援計画等を作成し、情報の共有と評価、見直しを行う。
- 一人一人に応じた支援を心掛け、作成した個別の指導計画の短期目標が達成できるようにする。

2019年度新潟市立木崎小学校教育ビジョン

＜教育目標＞

＜すじみちを立てて考える子ども＞＜明るく思いやりのある子ども＞＜からだをじょうぶにする子ども＞

(重点課題)

意欲的に考える子ども

きまりを守り自他を尊重する子ども

健康的な生活習慣を身に付ける子ども

学力の向上

- ・基礎的・基本的な学習内容の定着に努める。
- ・友達と協働して論理的に考え、学びを深める。
- ・ステップアップタイムの実践を通して、自分で計画を立て、見通しをもって家庭学習に取り組む習慣を身に付ける。

豊かな心

- ・自他を大切にし、よりよい人間関係を築けるようにする。
- ・生活目標の取組を通して規範意識や思いやりの心を育成し、自己肯定感を高める。
- ・いじめ見逃しゼロを目指す。

健やかな体

- ・食に関心を持ち、望ましい食習慣を形成することができることを目指す。
- ・自分の体力を知り、体力向上のために運動することができることを目指す。

- ・年に8回程度、国語と算数の全校テストを実施し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
- ・友達とのかかわりの中で論理的に考え、振り返りで学びの深まりを自覚する子どもの育成を目指した授業づくりに取り組む。
- ・学校での授業と家庭学習をつなぐ「ステップアップタイム」の取組を全校体制で行い、自分で計画を立て、見通しをもって家庭学習に取り組む習慣を定着させる。

- ・各教科や特別の教科道徳、特別活動等で、めあてをもち、自分で決め、自分らしさを発揮し、認め合い・協力し合う場を意図的に設定する。
- ・木崎小のきまりや思いやりの心を育てる取組を中心に生活目標を設定し、学級会で解決策を話し合い、全校で取り組む。
- ・「木崎小学校いじめ防止対策基本方針」に基づいて、日常の見取りや「みんなの学校生活調べ」等の調査、面接指導を活用して、いじめ見逃しゼロに取り組み、いじめ発見後すぐ対処する。

- ・地域の産物や人材を生かした食育授業の実施、「弁当の日」取組の充実を図り、地域を生かした食育を充実させる。
- ・健康的な生活のために、生活習慣の改善に向けた強調週間(きざキッズすこやか週間)を年2回実施し、家庭との連携を図る。
- ・活動の場を工夫しながら、目的意識をもたせ体力向上を図るために、体力を向上させる授業の工夫やめあてをもつための記録の蓄積と活用を図る。

特別支援教育

- ・児童の実態を全職員間で共通理解し、実態に合わせ児童の能力が発揮できるよう支援に努める。
- ・合理的配慮と学習の環境整備を進め、子どもが安心して参加できる授業づくりに努める。
- ・個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と見直し改善を実施し、個の支援を充実させる。

＜学級の支持的風土＞

認め合い、助け合い
期待をかけ合い、高めあう
温かい学級の風土

＜保護者や地域と共に歩む開かれた学校：木崎中学校区小中一貫教育＞

- ・地域教育コーディネーターを中心に、積極的に地域の人材活用に努め、保護者や地域との協働を進める。
- ・学習支援ボランティアや地域を生かした食育を充実させる。
- ・生活習慣の改善に向けた生活リズム、食事、ノーマディア等の強調週間などで家庭との連携を図る。